

*Gift from
the Mother Earth*

～母なる大地の贈り物～

黒ガリンガルで

健康長寿生活





パワースポットが生み出す奇跡の生薬

・原産は黄金の三角地帯

東南アジアの山岳地帯、**ゴールドトライアングル(黄金の三角地帯)**が原産の生薬植物です。黒ガリンガルは、本来は野生種であり、生姜やウコンと親戚関係にありますが、学術名も異なる別種の植物で、含まれている成分も違い、驚くべきパワーを持っています。

この地域は古代から**パワースポット**として非常に有名な場所であることもあり、現地の山岳民族は、黒ガリンガルのことを**“山の神様・母なる大地の贈り物”**と呼んでいます。

・驚異の内容成分、未開のスーパーフード！

まだ黒ガリンガルの力は全て解明されていませんが、その栄養成分は驚きの連続！！
18種類のアミノ酸が**“プラセンタ”**の約1.5倍、そのなかでも、スーパーアミノ酸**“アルギニン”**は強壮剤で有名な南米の**マカ**の約2倍。抗酸化で知られる、**“アントシアニン”**は**ブルーベリー**の約3倍、柑橘類の皮にしか含まれていないはずの、スーパー有能ポリフェノールである、**“ポリメトキシフラボノイド”**はなんと、**シークワーサー**の約100倍も含まれているのです！

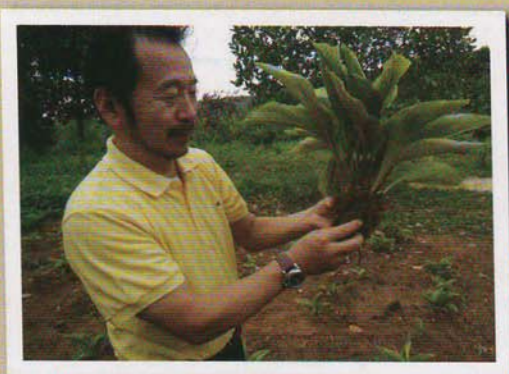


・秘境の山岳民族が1200年も愛用

この地域では、今でも男女問わず、80歳以上の高齢者が、軽々とピックアップトラックの荷台に飛び乗って毎日元気に農作業を行い、なんと80代で**“父親”**になっている人もいます。



この想像を超える、生き生きとした若々しさを手に入れている彼らには、秘密があります。それこそが、彼等が**“山の神様の贈り物”**と呼んで**1200年前から愛用**している、大いなる大地のエネルギーを取り込んで育った植物である、この**“黒ガリンガル”**なのです。





生薬の宝石「黒ガリンガル」とは？

・10年の歳月をかけた芸術的サブリ

“生薬の宝石”と言われる黒ガリンガル、**東南アジアの限られた地域でしか育たない**この植物を、皆様に安定的にお届けできるようになるには、実に10年もの歳月が必要でした。何度も何度も山岳地帯に足を踏み入れ、言語の壁に隔てられながらもコミュニケーションをとり、現地の人々の考えや習慣に歩み寄り、ようやく可能になりました。

・妥協を一切許さない自然農法と特許取得の加工方法

農薬はもちろんのこと肥料も一切使用せず、自然に任せたままの栽培。しかも収穫後は5年間その土地を休ませるといふ非効率としか言えない農法。**大地に敬意を払い、古来からの栽培方法を頑なに守るがゆえにできる、この最高の黒ガリンガル原料**を、最大限日本の皆さんの健康に役立てられる状態で届けたい。限りなくベストに近い状態の黒ガリンガルを摂っていただけるように、その思いだけで、**全ての工程において日本で加工**しています。

そして余計なものを足すこともなければ、加工の過程で大切な成分が失われることもないように、**特許取得の特殊乾燥方法**で、山岳民族の人達が生で食しているのに可能な限り近い状態で、お届けできるようになりました。

・薬草ハンター、佐藤の熱い想い

超高齢化社会へと足を踏み入れた日本。歳を重ねることは、誰にも止めることはできません。病気の人にも健康な人にも時間は平等にやってきます。それなら、**心も身体も脳も若々しく元気なまま、そしていくつになっても毎日を楽しく自分で過ごすことができる方がもちろん良いと思いませんか？**

時代は“病気になってから治療する”ことから、“**いかに病気を予防して健康を維持するか**”へシフトはじめています。**あなたやあなたの愛する人達の、健康長寿を黒ガリンガルで少しでも応援したい。**それがきっと、この日本を良くする第一歩になる、と私たちは思うのです。



株式会社レーネ

会長

佐藤 恭男



究極のエイジングケア対策は、 抗酸化・抗糖化・抗炎症

・糖質制限だけでは危険！？

人の身体が老化する原因は主に“酸化・糖化・炎症”です。中でも、最新のアンチエイジング研究では“糖化”による老化への深刻な影響が解明されてきています。その害が知られ始めた昨今は対処についても様々取り上げられていますが、

糖質制限だけに目がいくのは危険なことともいえます。そもそも糖は身体、特に脳にとって重要な栄養素。それを過剰に制限してしまうのはかえって身体にダメージを与えることになりかねません。



糖化により毒性物質 AGE s が体内にできる

酸化がサビなら、糖化はコゲ。肌や内臓の老化はコラーゲンの糖化で悪化します。そして糖尿病合併症はもちろんのこと、日本人の死亡3大原因に入る心疾患や脳血管疾患をひき起こす動脈硬化や血管老化は、糖化が大きな要因となって起きることが分かっています。



隠れ肥満は糖化が進みやすく
万病のもとに…

さらには、寝たきり（ロコモティブシンドローム）になってしまうきっかけとして世界中で問題となっている、骨粗鬆症もカルシウム不足よりも骨の糖化が原因であることが多いと発表されています。もちろん糖質という入り口を抑えることが必要な場合もありますが、本当のアンチエイジングには、
身体がコゲてしまうこと＝糖化反応、を抑制することこそが重要なのです。

・最高レベルの抗糖化植物

その糖化反応を抑制することに長けているのが、冒頭の地域に育つ、この“黒ガリンガル”という植物です。その抗糖化力は、同志社大学生命医科学部アンチエイジングリサーチセンターでの研究により、220種類近くの野菜や薬草類のなかで最高の抗糖化力であることが判明。

古くから糖尿病に良いとされている桑の葉や明日葉の約15倍、キャベツやゴボウの約100倍の抗糖化力があり、さらに黒ガリンガルには抗酸化力と抗炎症力があることも確認されています。まさに『究極のエイジングケア植物』と言っても過言ではないのです。



ヘモグロビン A1C は糖化反応の中間体の一つ



脳機能改善作用への可能性

・脳科学研究の第一人者と共同研究を実施

“糖化”は美容面での老化に大きな影響を与え、健康面にも深刻な悪影響を及ぼすわけですが、その中でも大きな社会問題になってきているのが**認知症**です。

日本人の認知症の大半を占める**アルツハイマー病**は“**脳の糖尿病**”とも言われ、アルツハイマー病の**原因**となる**脳内の変異タンパク**には**糖化**が**大きな要因**として関わっていることが、分かっています。

現在、世界で最も使用されているアルツハイマー病の対症療法薬である“**アリセプト**”を開発した**杉本八郎教授**は、黒ガリンガルの強い抗糖化力と抗炎症力に注目、実験を行ったところ、黒ガリンガルには**アルツハイマー病のきっかけ**となる**脳内での、変異タンパク質であるアミロイドβ蛋白とタウ蛋白の凝集抑制作用**が**確認**されたのです！



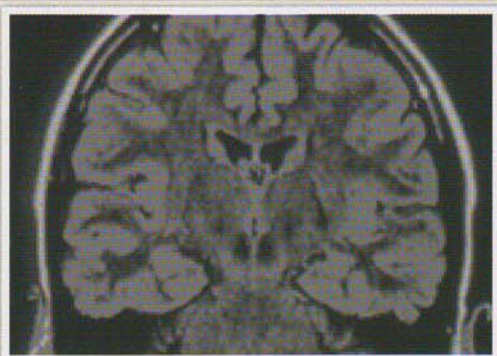
同志社大学・脳科学研究科教授
杉本八郎先生

さらに、脳内での**記憶を伝達する重要な神経物質である、アセチルコリンの減少を抑制する作用**があることも分かり、黒ガリンガルがもつ**血流改善効果**や**抗炎症効果**とあいまって、**脳機能改善効果、認知症予防作用**への当社との共同研究が、杉本教授を中心に進められています。

1200年以上の実績を持つ“**未知なる植物・黒ガリンガル**”から、まだまだ目が離せません。



脳内のタンパク質が**AGE化（糖化）**すると、その中に**アミロイドβ**というタンパク質に変質するものが出てきます。立体構造に変質したアミロイドβ蛋白は組織に沈着しやすく、**老人斑**と呼ばれる斑点をつくります。それにより、神経細胞内に**変異したタウ蛋白**も溜まってくるのです。これらが**広がると神経細胞を死滅**させ、アルツハイマー型の認知症を引き起こします。





株式会社

RENE

JAPAN BEAUTY & HEALTH

お問い合わせは、

株式会社 SENJ

愛知県岡崎市明大寺町出口68番地1

電話 : 0564-66-1173

FAX : 0564-66-1143

E-mail: maeda@senj.co.jp